

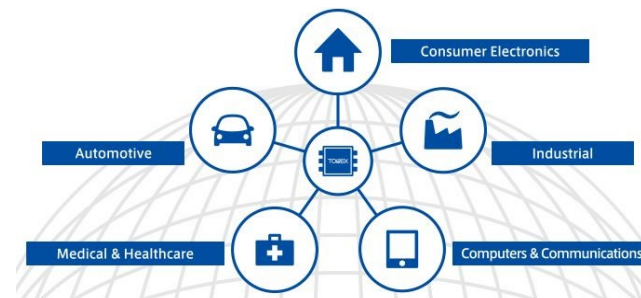
2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

2025年 11月19日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている

あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2026年3月期 第2四半期業績

2

2026年3月期 業績予想

3

株主還元

4

トピックス

5

中期経営計画

Appendix

▶ **トレックスは、日本市場と北米市場の売上は回復したものの、原価上昇の影響により、増収減益**

▶ **フェニテックは、欧州市場は回復するも、北米市場の売上が減少し、減収増益**

▶ **上期実績と足元の事業環境を踏まえ、2026年3月期の業績予想を修正**

2026年3月期 第2四半期業績

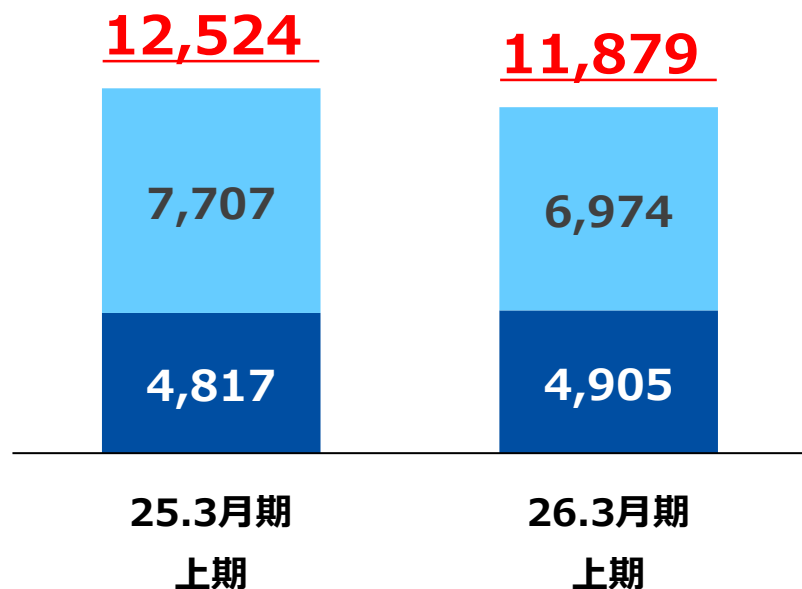
(単位：百万円)

	25.3期 上期実績	26.3期 上期実績	対前年同期比 増減率
売上高	12,524	11,879	▲5.1%
営業利益	336	414	23.1%
営業利益率	2.7%	3.5%	0.8pt
経常利益	69	381	444.6%
親会社株主に 帰属する中間純利益	5	336	-
EPS（円）	0.51	31.72	31.21
海外売上高比率（*1）	70.3%	70.6%	0.3pt
平均為替レート（1\$=）	¥ 152.2	¥146.5	-
減価償却費	1,066	988	▲7.3%
設備投資	1,696	784	▲53.8%

（*1）海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



➤ トレックス

- 日本市場と北米市場が回復し
若干の増収
- 産業機器分野と医療機器分野
が増加

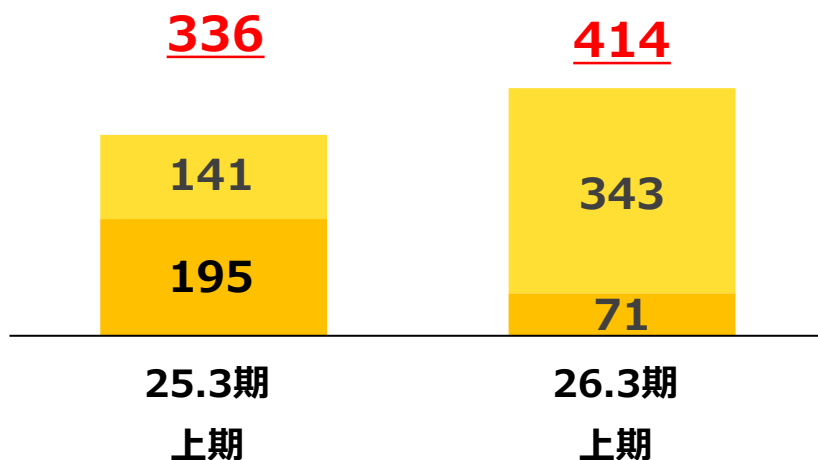
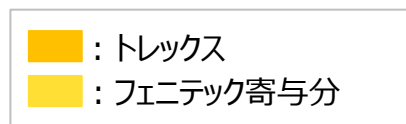
➤ フェニテック

- 北米市場の減少に伴い、減収
- 産業機器分野が減少

(単位：百万円)

	25.3期 上期実績	26.3期 上期実績	対前年同期比増減率
売上高	12,524	11,879	▲5.1%

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 原価上昇の影響により減益

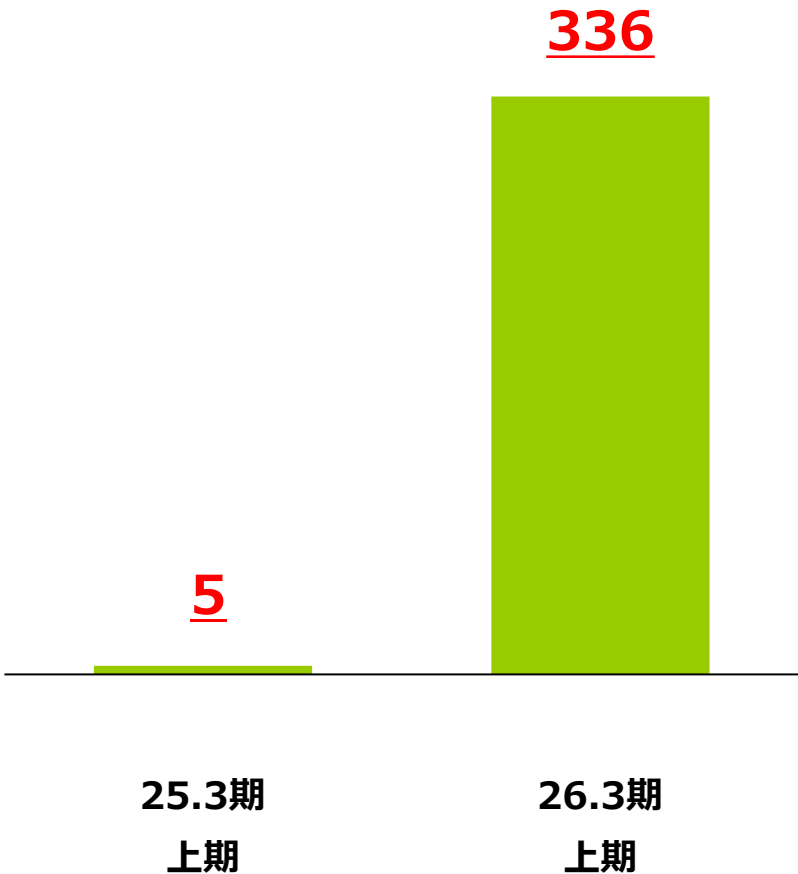
➤ フェニテック

- 経費抑制の取組みの効果により増益

(単位：百万円)

	25.3期 上期実績	26.3期 上期実績	対前年同期比増減率
営業利益	336	414	23.1%

(単位：百万円)



営業利益の増加と、為替差損の減少により、増収

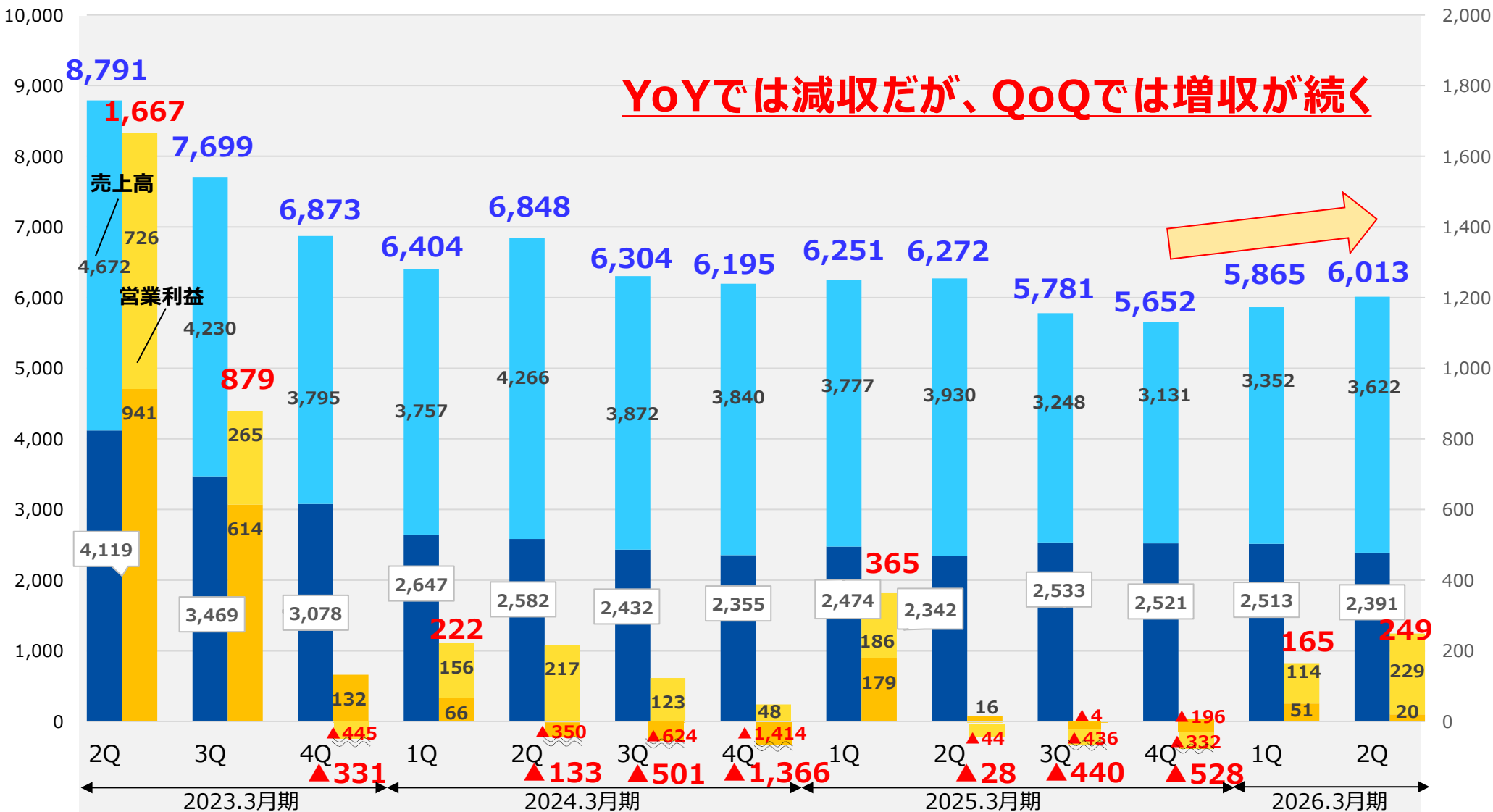
(単位：百万円)

	25.3期 上期実績	26.3期 上期実績	対前年同期比増減率
中間純利益	5	336	-

売上高・営業利益の四半期推移

(左軸：売上高) トレックス : ■ ■
(単位：百万円) フェニテック : ■ ■

(右軸：営業利益)
(単位：百万円)



(単位：百万円)

	25年3月期末	26年3月期上期末	対前期末増減
資産	33,607	35,059	1,452
負債	16,207	17,556	1,349
純資産	17,400	17,503	103

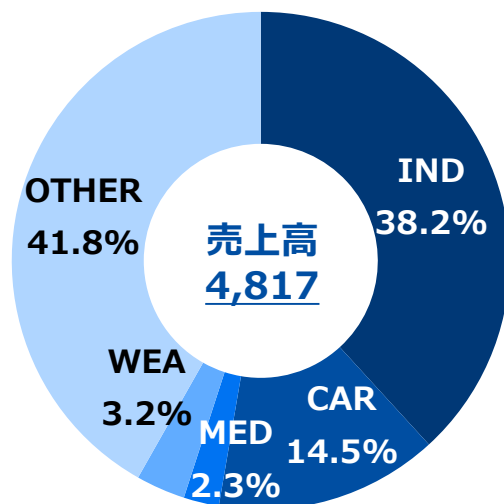
<参考> キャッシュ・フロー関連指標の推移

	25年3月期末	26年3月期上期末	対前期末増減
有利子負債	12,984	14,526	1,542
自己資本比率	51.8%	49.9%	▲1.9pt
D/Eレシオ	0.74	0.83	0.09pt

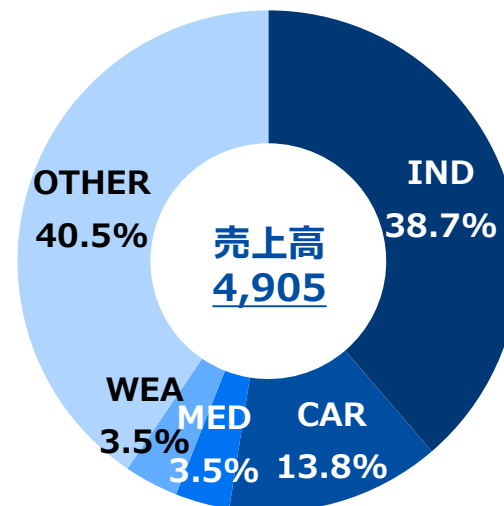
トレックス／フェニテック 各単体

2026年3月期 第2四半期業績 ～アプリケーション別売上高（トレックス）：参考値

TOIREX



25.3期 上期実績



26.3期 上期実績

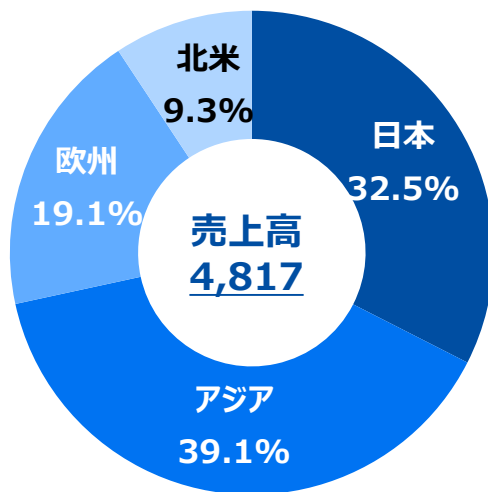
(単位：百万円)

アプリケーション		25.3期 上期		26.3期 上期		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	1,842	38.2%	1,900	38.7%	3.1%
CAR	車載機器	699	14.5%	675	13.8%	▲3.4%
MED	医療機器	112	2.3%	174	3.5%	55.4%
WEA	ウェアラブル機器	155	3.2%	172	3.5%	11.0%
OTHER	その他機器	2,009	41.8%	1,984	40.5%	▲1.2%

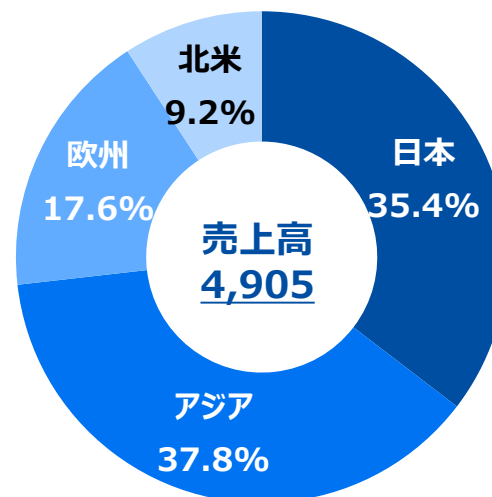
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2026年3月期 第2四半期業績 ～地域別売上高（トレックス）

TOIREX



25.3期 上期実績



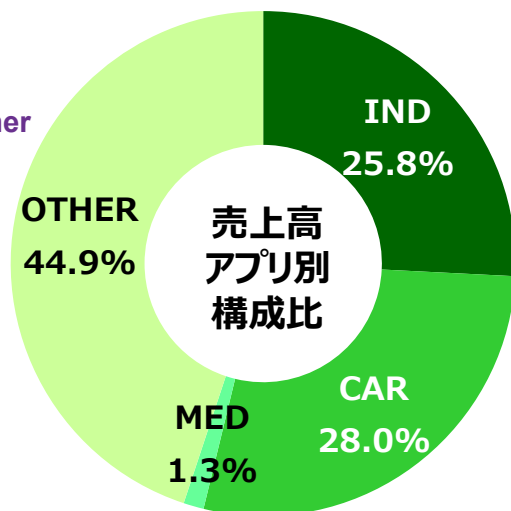
26.3期 上期実績

(単位：百万円)

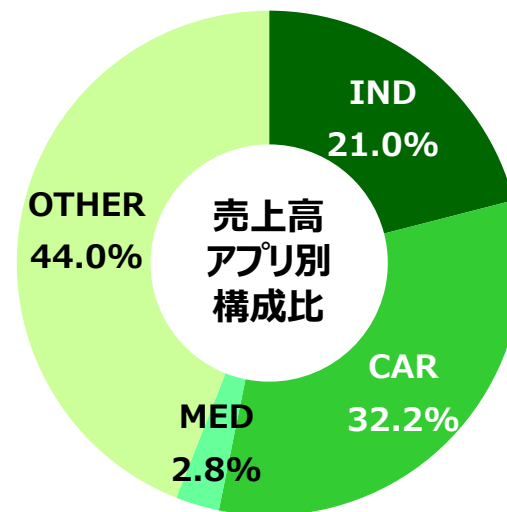
地域（D-in）	25.3期 上期		26.3期 上期		対前年同期比 増減率
	売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	
日本	1,566	32.5%	1,738	35.4%	11.0%
アジア	1,883	39.1%	1,853	37.8%	▲1.6%
欧州	921	19.1%	861	17.6%	▲6.5%
北米	447	9.3%	453	9.2%	1.1%
平均為替レート（1\$=）	152.2円		146.5円		

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2026年3月期 第2四半期業績 ～アプリケーション別売上高（フェニテック）：参考値



25.3期 上期実績



26.3期 上期実績

(単位：百万円)

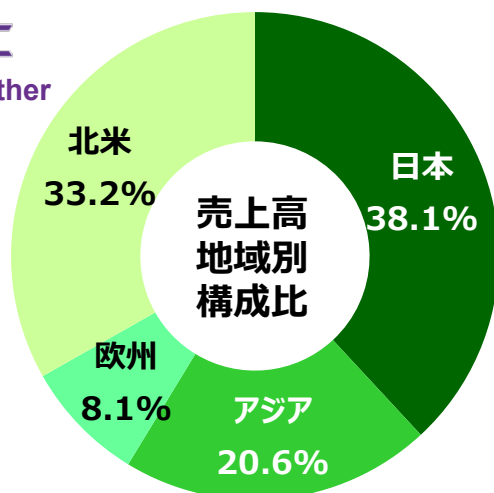
アプリケーション		25.3期 上期		26.3期 上期		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	2,317	28.0%	1,660	21.0%	▲28.4%
CAR	車載機器	2,137	25.8%	2,543	32.2%	19.0%
MED	医療機器	110	1.3%	222	2.8%	101.6%
OTHER	その他機器	3,706	44.9%	3,463	44.0%	▲6.5%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

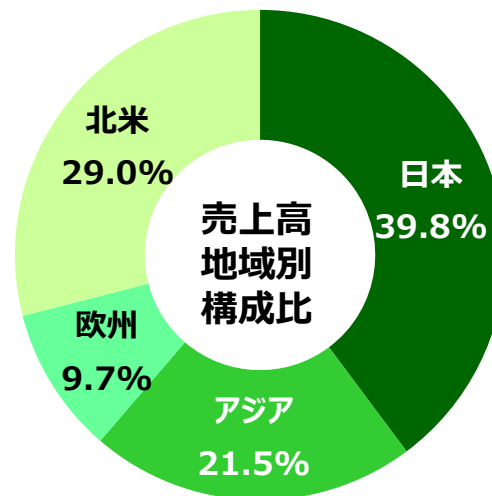
トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

お客様から用途を開示頂けない製品は、その他機器に含めております。

2026年3月期 第2四半期業績 ～地域別売上高（フェニテック）



25.3期 上期実績



26.3期 上期実績

※ 顧客の所在地別に区分しています。

(単位：百万円)

地域（顧客）	25.3期 上期		26.3期 上期		対前年同期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	3,148	38.1%	3,136	39.8%	▲0.4%
アジア	1,705	20.6%	1,697	21.5%	▲0.5%
欧州	672	8.1%	763	9.7%	13.5%
北米	2,746	33.2%	2,290	29.0%	▲16.6%
平均為替レート（1\$=）	152.2円		146.5円		

※注：日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2026年3月期 業績予想

26年3月期の業績予想を変更しました。

(単位：百万円)

	25.3期 通期実績	26.3期 業績予想 (当初)	対前年 同期比 増減率	26.3期 業績予想 (11/14)	対前年 同期比 増減率
売上高	23,957	25,500	+6.4%	24,500	+2.3%
営業損益	▲632	400	-	600	-
営業利益率	▲2.7%	1.6%	-	2.5%	-
経常損益	▲820	400	-	600	-
親会社株主に 帰属する当期純損益	▲2,358	300	-	400	-
EPS (円)	▲215.75	27.87	-	39.65	-
平均為替レート (1\$=)	¥152.4	¥145.0	-	¥145.0	-
減価償却費	2,468	2,000	▲19.0%	2,100	▲14.9%
設備投資	2,964	2,740	▲7.6%	2,740	▲7.6%

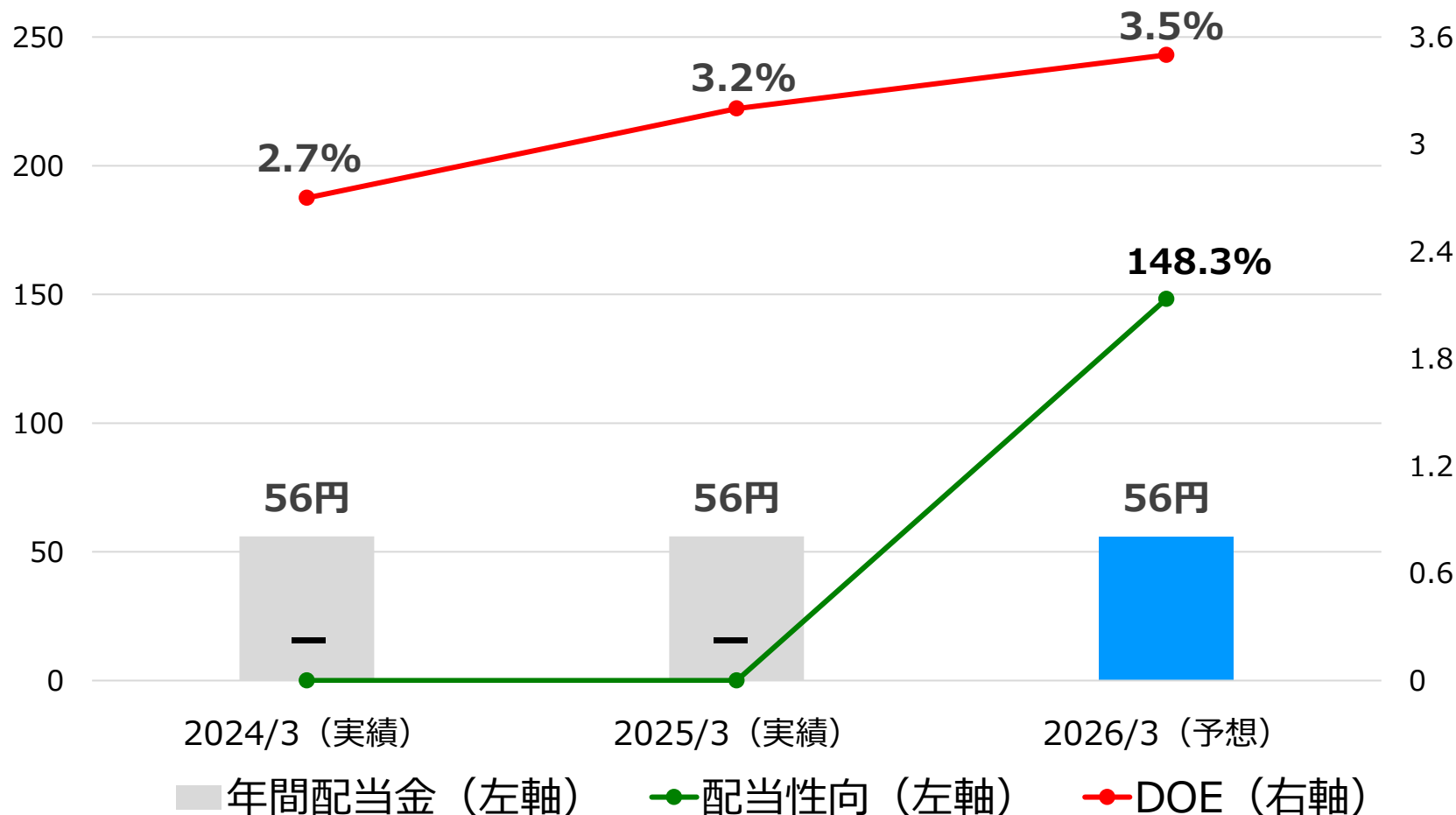
株主還元

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として
連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元
の拡充として**株主資本配当率（D O E）3%程度**を当面
の目標として実施しております。

連結配当性向20%以上、D O E 3%程度を目標として還元

配当金：円
配当性向：%

DOE：%



トピックス

11月17日に半導体製品の世界的IDMメーカーであるPANJIT社と、当社の後工程を行うTVS社の持分の95%を譲渡する契約を締結いたしました。

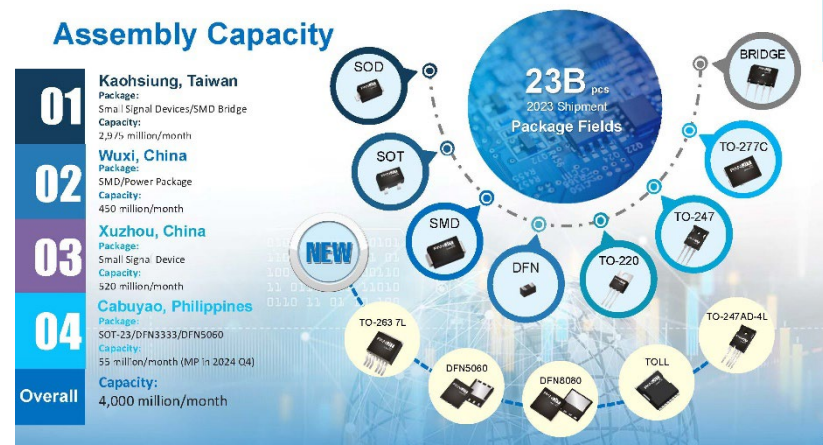
名称	PANJIT INTERNATIONAL INC.
所在地	No. 24, Gangshan N. Rd., Gangshan Dist., Kaohsiung City, Taiwan
売上高 (2023年12月期)	12,707,319千台湾ドル (597億24百万円 / 1台湾ドル=4.7円換算)

トックスグループのメリット

PANJIT社の製造技術力と、ファブレスメーカーである当社の設計開発力を活かし、相互にシナジー効果を発揮。

パッケージ技術の高度化と全体的な競争力を向上

持分譲渡割合	95%
譲渡価額	10,032,000米ドルを基準として、譲渡実行日時点のTVS社の純資産価額に応じて調整された一定の金額
譲渡契約締結日	2025年11月17日
持分譲渡実行日	TVS社の所有権移転に係る手続き完了後、一定の日



※同社IR資料より抜粋

トレックスの電源ICは、省電力/小型のスペックが評価されています。

2025年度



電気・電子
部品賞 受賞

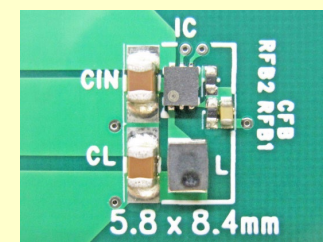
日刊工業新聞主催

XC9704/05シリーズ：降圧DC/DCコンバータ

36Vの高耐圧でありながら省スペースを実現した低消費電力の降圧同期整流DC/DCコンバータです。産業機器等でよく使用される12Vや24Vの電源入力に対応。通信やセンサー等に十分な最大600mAの出力電流、動作温度範囲は-40℃から125℃まで対応しています。

<< 商談・採用事例 >>

- ・ 家庭用 エアコン
- ・ 業務用 エアコン、リモコン/コントローラ
- ・ 産業用カメラモジュール
- ・ FA用 各種センサー類
- ・ デジタル家電
- ・ 家電製品、白物家電



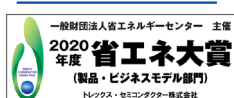
36V 600mA 降圧DC/DC
小型/低消費ソリューション

2023年度



日刊工業新聞主催
XC9145シリーズ
DC/DCコンバータ

2023年度



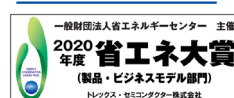
省エネルギーセンター主催
XC8118/
XC8111シリーズ
ロードスイッチIC

2022年度



日刊工業新聞主催
XC8110/
8111シリーズ
ロードスイッチIC

2020年度



省エネルギーセンター主催
XC9276シリーズ
DC/DCコンバータ

2019年度



日刊工業新聞主催
XC9281/
XC9282シリーズ
DC/DCコンバータ

2018年度



経済産業省主催
XC9265シリーズ
DC/DCコンバータ

2018年度



日刊工業新聞主催
XC6192シリーズ
ロードスイッチIC

中期経営計画

A conceptual illustration of a hand holding a glowing globe, surrounded by various icons representing sustainable development goals like renewable energy, climate action, and social equity.

トレックスグループ 数値目標

2028年度

連結売上高：320億円

営業利益：25億円

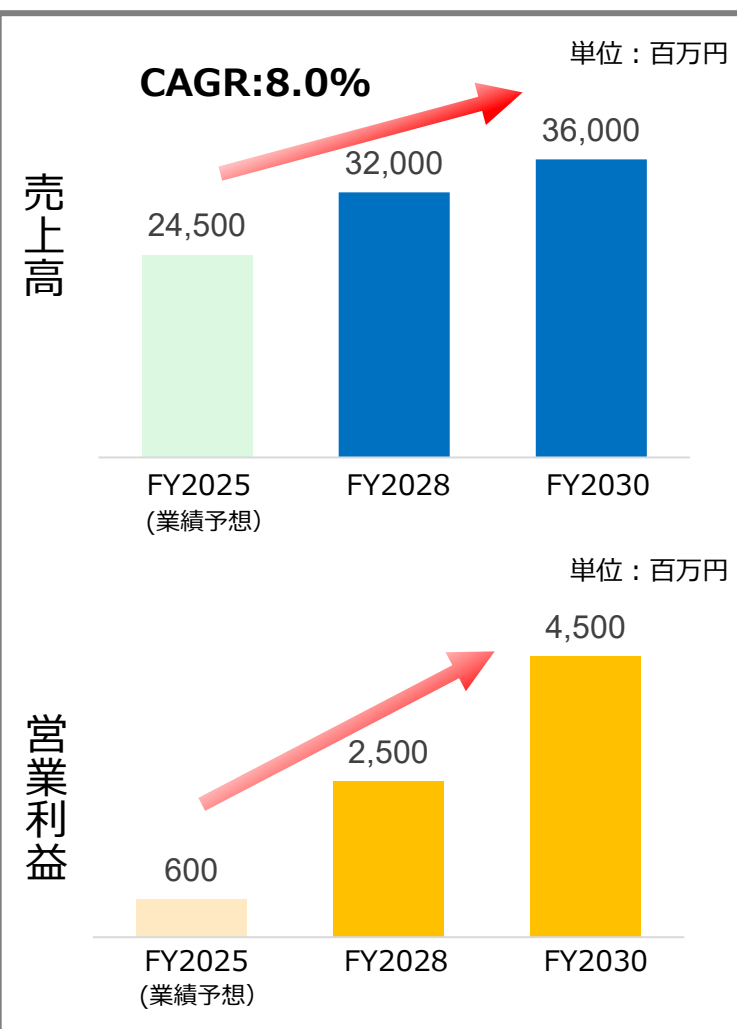
2030年度

連結売上高：360億円

営業利益：45億円

ROE：2029年度に2桁

DOE：3%を継続



TOIREX



トレックス・ セミコンダクター

**ファブレスメーカー
アナログ電源IC専業**

強
み

- ・省電力／小型化の技術
- ・蓄積されたアナログ回路ノウハウ
- ・マーケティングと製品企画力
- ・フレキシブルな生産工場
- ・高品質をキープするQC
- ・ワールドワイドの製品販売網

Phenitec
For Further Growth Together



フェニテック セミコンダクター

**半導体受託専業(ファウンドリ)
ディスクリート、パワーデバイス、
CMOSアナログプロセス**

強
み

- ・高品質を支える生産ノウハウ
- ・長期安定供給のJapanFab
- ・車載 IATF16949取得工場
- ・専門性の高い製造対応力
- ・オリジナルデバイスの開発力
- ・パワーデバイスの開発力



トレックス・ セミコンダクター グループ

- ・顧客第一に徹した、小回りの利く対応力
- ・積極的なコラボレーションやM&Aによる協力関係の構築

ファブレス&ファウンドリ

トレックス・フェニテックのそれぞれが共に成長しながら、
相互補完でシナジーを発揮し、中期経営計画を達成する。

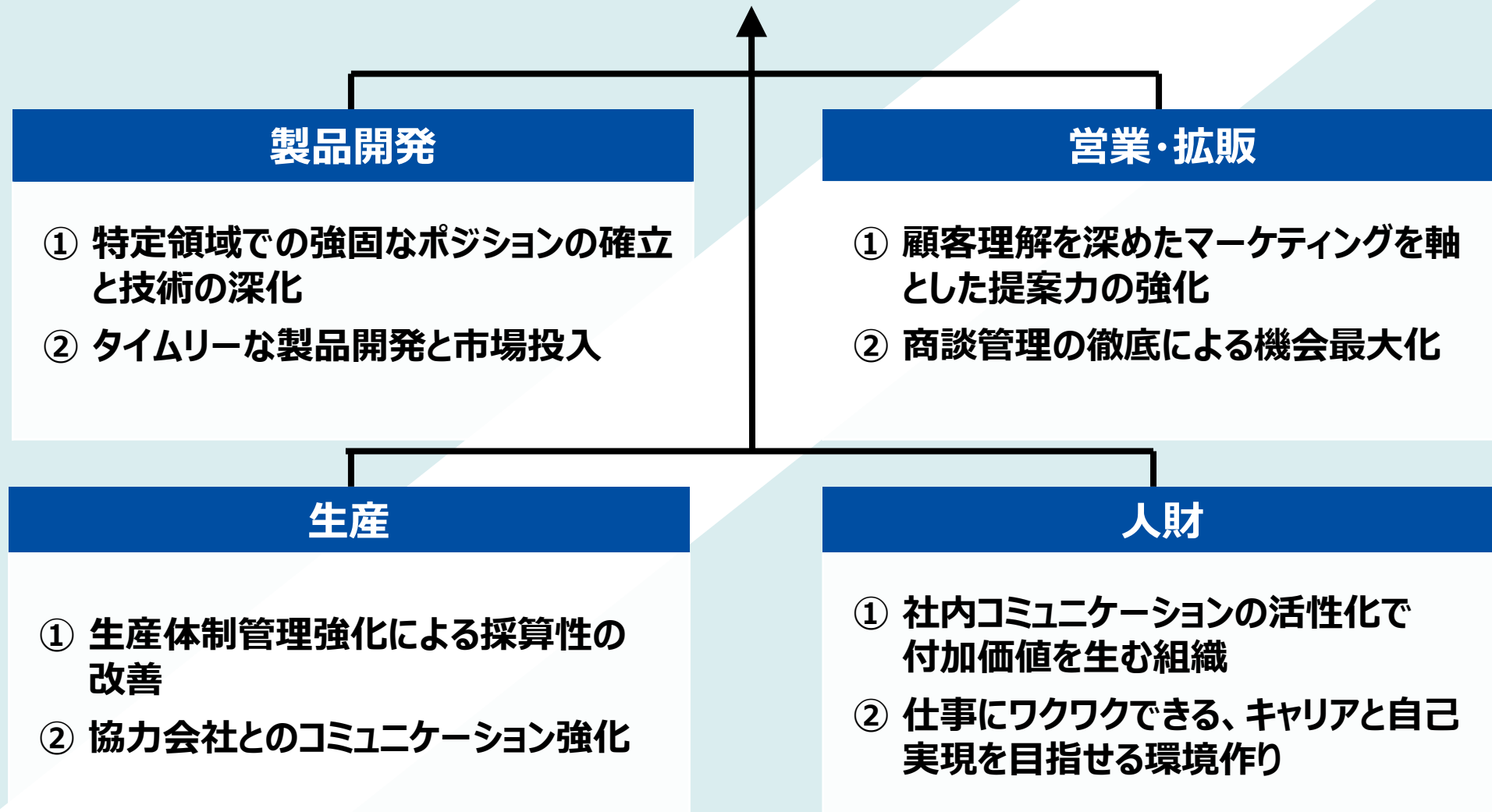
トレックス・セミコンダクター



VISION

エコでスマートな未来の実現にむけて、
エレクトロニクスを半導体技術で支える
「省エネ小型電源」のリーディングカンパニーになる

エコでスマートな未来の実現にむけて、エレクトロニクスを半導体技術で支える
「省エネ小型電源」のリーディングカンパニーになる。



製品開発 戦略

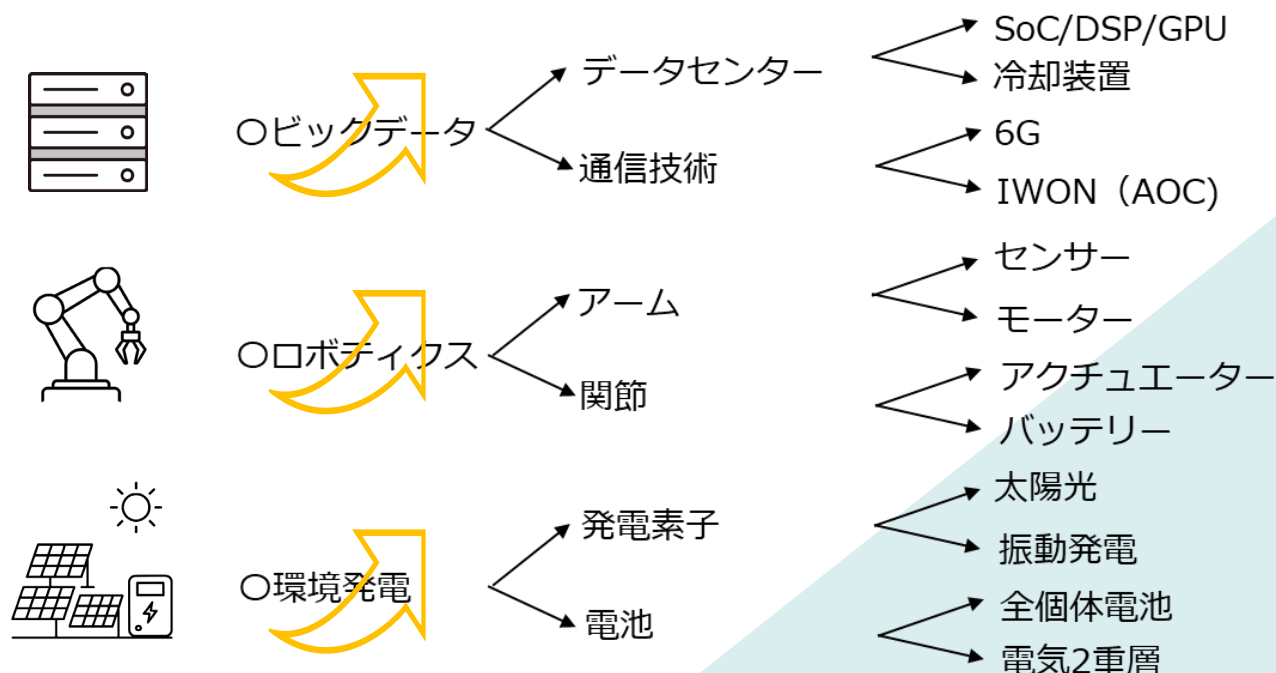
- ① 特定領域での強固なポジションの確立と技術の深化
- ② タイムリーな製品開発と市場投入

重点施策

- ① 中高耐圧の電源IC製品の開発を強化し、産業機器分野の販売拡大
AIビッグデータ、ロボティクス、高速光通信、など
- ② 特定領域の要求に対応したユニークなDC/DCコンバータ製品の開発
技術コラボレーション、リファレンス回路、電源モジュール、など
- ③ 回路技術・関連技術の技術力アップ・開発スピードアップ
基礎技術／応用技術の強化、人材育成、タイムリーな製品開発
- ④ 技術コラボレーション／協業の推進
市場トレンドと要求をキャッチアップ

特定領域でのプレゼンス発揮／ニッチトップ

■ ターゲット市場マップ



■ 戦略製品ラインナップ

- ・ 中高耐圧製品の拡充
- ・ コイル一体型DC/DCのラインナップ拡大
- ・ 低出力電圧電源IC、低ノイズ製品の開発

プレゼンスを発揮する製品

■ 関連技術

プロセス技術、チップレット、アセンブリ技術の深化 etc.

営業・販売 戦略

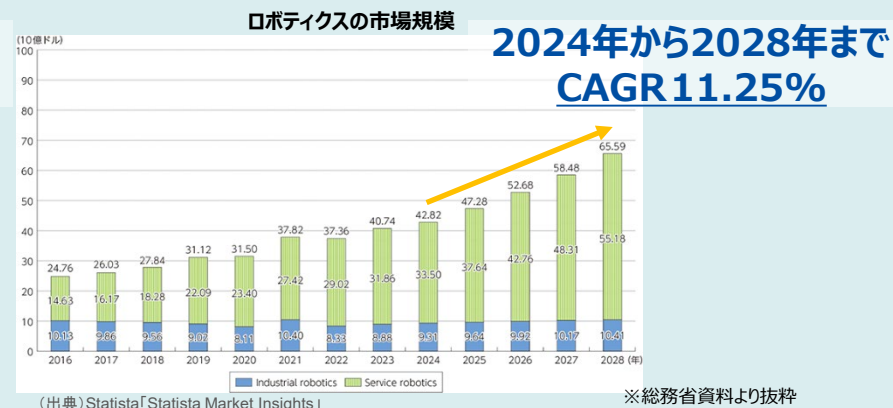
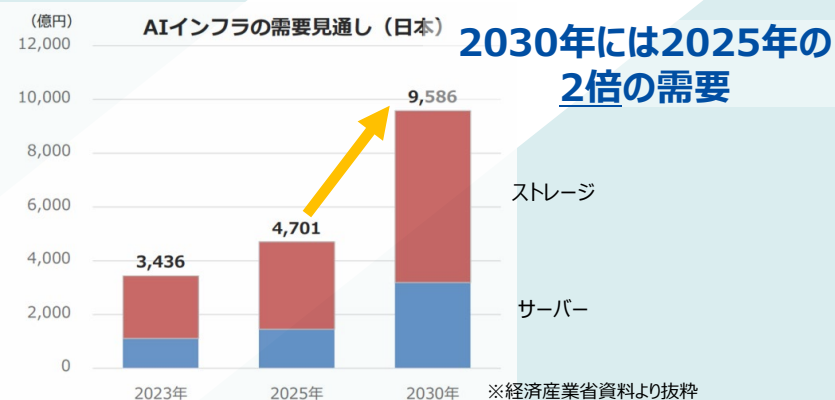
- ① 顧客・市場理解を深めたマーケティングを軸とした提案力の強化
- ② 商談管理の徹底による機会最大化

重点施策

- ① 技術営業・FAE※を活用したソリューション提案
- ② 営業情報の展開強化
- ③ グローバル販売における対応と拡大推進
- ④ 営業管理システムの再構築

※FAE:フィールドアプリケーションエンジニア

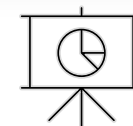
■ 市場予測





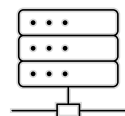
技術営業・FAEの活用

- ・最適なソリューションを提案
- ・技術面での市場トレンド/顧客ニーズの明確化
- ・新規顧客開拓



営業情報の展開強化

- ・顧客情報を基にした新製品開発
- ・市場トレンドのグローバル共有



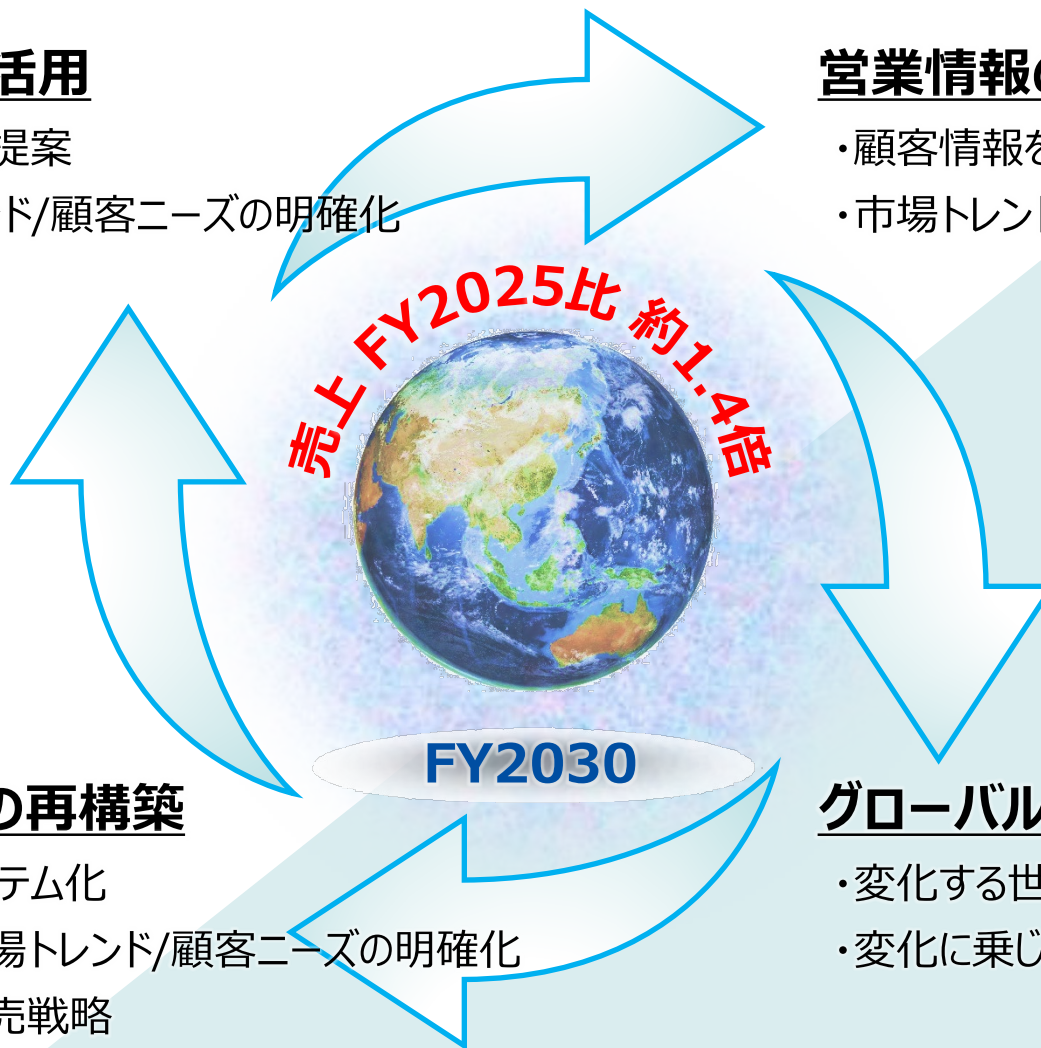
営業管理システムの再構築

- ・営業情報のデータシステム化
- ・データドリブンによる市場トレンド/顧客ニーズの明確化
- ・データドリブンによる販売戦略



グローバルな変化に対応

- ・変化する世界各地域に対応する提案
- ・変化に乗じた販売機会の拡大



生産 戦略

- ① 生産体制管理強化による採算性の改善
- ② 協力会社とのコミュニケーション強化

重点施策

採算性改善
×
協力会社
との関係

- ① 採算性の高い生産体制(企画×開発×生産×販売)の構築
- ② 複数工場の活用による供給安定化とコスト最適化
- ③ 協力工場(新規含む)との連携による新規技術導入と高品質維持

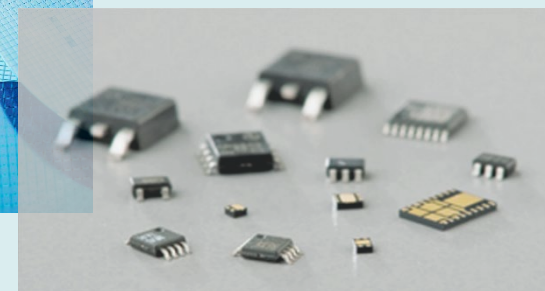


フェニテックセミコンダクター



ウエハ ファウンドリ

パッケージ OSAT

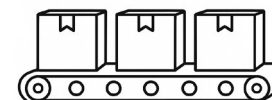


協力工場との連携

施策内容

採算性の高い生産体制(企画×開発×生産×販売)の構築

- ・ 仕掛在庫、余剰在庫の削減
→ ロットサイズ、販売MOQ、社内情報連携の強化
- ・ 生産リードタイムの改善、市場動向の適切な反映



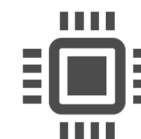
複数工場の活用による供給安定化とコスト最適化

- ・ ボリュームディスカウント × BCP の最適化
- ・ 歩留り改善 / テスト時間短縮



・ 協力工場(新規含む)との連携による新規技術導入と高品質維持

- ・ 戦略的なパッケージ開発と展開
- ・ 交流会による技術面／生産面での情報更新

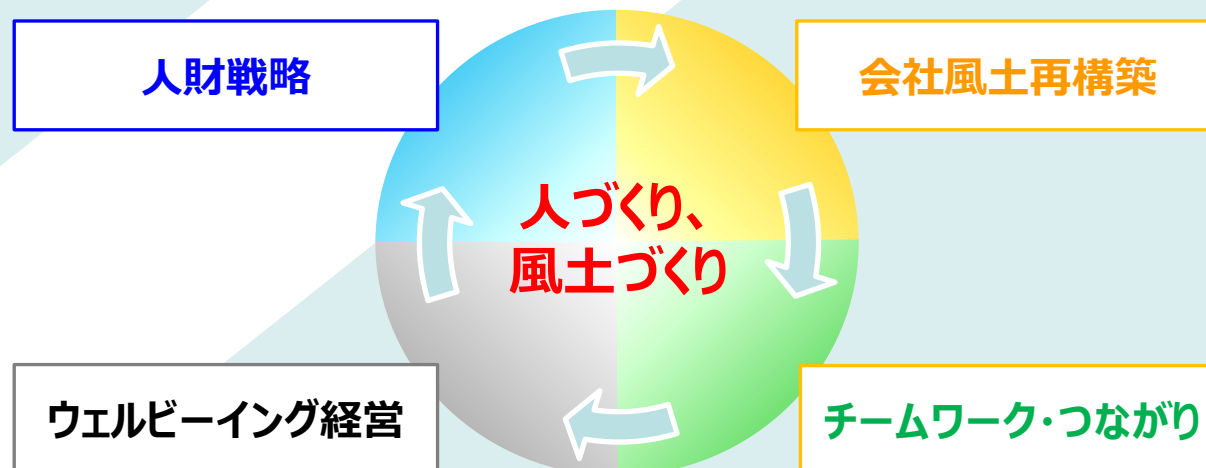


人財 戦略

- ① 社内コミュニケーションの活性化で付加価値を生む組織
- ② 仕事にワクワクできる、キャリアと自己実現を目指せる環境作り

重点施策

- ① 人財戦略（人材確保／育成）
- ② 会社風土の再構築
- ③ チームワーク・つながりの強化
- ④ ウェルビーイング経営の推進



人的資本経営

人財戦略

- ✓ それぞれの専門知識の向上
- ✓ 自主性／行動力の育成
- ✓ 仲間意識の浸透

会社風土再構築

- ✓ 企業理念・経営方針の浸透
- ✓ 教育体系の見直しと最適化
- ✓ 社内DXの推進と構築

ワクワクする 会社

ウェルビーイング経営

- ✓ 人事評価制度の改革
- ✓ 労働環境の改善
- ✓ やりがいのある業務

チームワーク・つながり

- ✓ ジョブローテーションの推進
- ✓ グローバル人材の育成
- ✓ 組織間の全体最適化

フェニテックセミコンダクター

ファウンドリ事業を通じ すべてのステークホルダーから信頼されることにより 持続的成長を目指します

For Further Growth Together

ファウンドリ事業

半導体前工程 ウェハプロセス受託加工を専業とした事業を当社の強みとし、事業展開を進めていきます。

ステークホルダー

ステークホルダーを、顧客・取引先・従業員・従業員の家族・株主・地域社会の人々等、私たちに関連するすべての人や団体と定義します。

信頼

会社として個人として、ステークホルダーと**相互に信頼関係にあるパートナー**となることを目指します。

持続的成長

信頼をベースに、ステークホルダーと共に**持続的に成長**していく企業を目指します。

当社は、事業活動を通じて市場の期待を超える価値を創出し、高品質な製品と誠実な供給責任をもって揺るぎない信頼を築きます。

従業員一人ひとりがプロフェッショナルとしての自覚と誇りを持ち、お客様、取引先、地域社会など、すべてのステークホルダーと共に持続可能な成長を追求してまいります。



ファウンドリ事業拡大：収益力向上と持続的成長

- ① ファウンドリ事業の持続的成長に向けた、市場の期待に沿った戦略的な技術開発を進める
- ② 顧客ニーズへの迅速な対応と対応能力向上及び当社の競争優位性に基づく価値提供により、継続的な顧客満足度向上を目指す

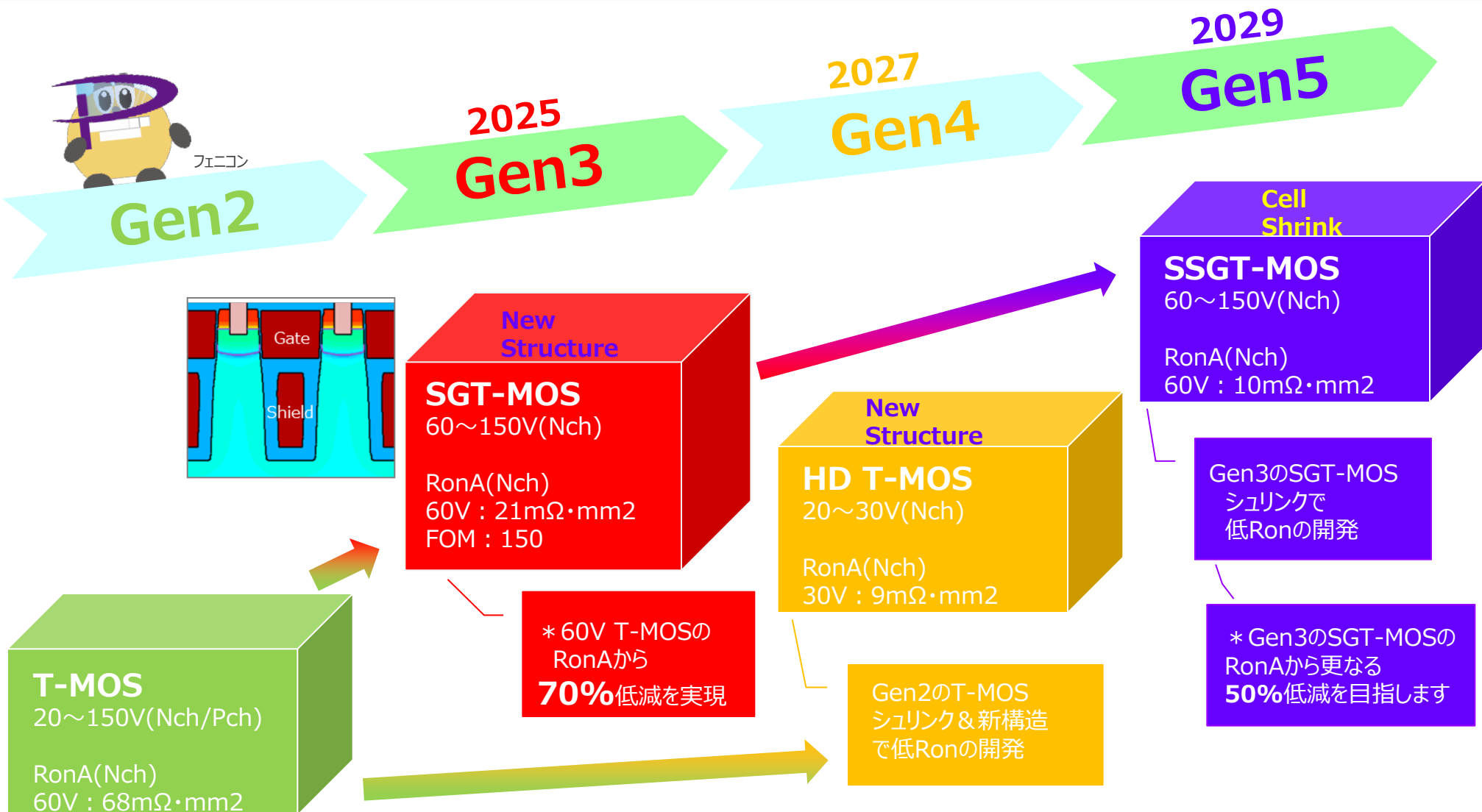
DX推進：データに基づいた意思決定と業務の効率化による生産性向上

- ① MES・ERPの刷新・AI活用などにより、散在する情報の統合・業務の効率化を図り、生産性の飛躍的向上と共に、データに基づいた意思決定を徹底し、課題に迅速に適応できる組織を目指す

サステナビリティ推進：環境負荷低減と従業員エンゲージメント向上

- ① 温室効果ガスの削減、適切な廃棄物処理・リサイクルの推進など、事業活動を通じて環境負荷を継続的に低減し、持続可能な社会の実現に貢献する
- ② 従業員一人ひとりが仕事に意義とやりがいを感じ、能力を最大限に発揮できるように、多面的な施策を実施し、組織全体の生産性と創造性を高めることで、企業として持続的成長を目指す

MOSFET



2025

2026

2027

2028

2029

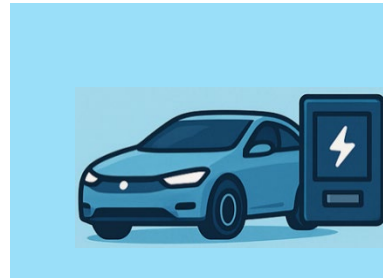
Bonded substrate process

SBD 650V/1.2kV MP

SBD 2.2kV/3.3kV ES,MS

Planar MOSFET 650V,1.2kV,2.2kV,3.3kV ES,MP

Trench MOSFET 1.2kV ES,MP



**Photo Diode
IC**

**Image sensor
JFET**

**PN Diode
IGBT**

TVS

Development candidate



In preparation

Single crystalline substrate process

**HV Tester
HV Prober**

Back Grinder

Laser Annealing

Epitaxial

HE Implanter

新規開拓：今後の主要顧客となりうる顧客開拓を目指し 新規案件を獲得する

- ◆ マーケティングの強化・・・2025年度 マーケティング担当設置
ニッチ市場特化型のマーケティング
- ◆ 新機種拡販
パワーデバイスのニッチ市場へ焦点をあてて拡販
オリジナル品の拡販、カスタム対応

拡販活動

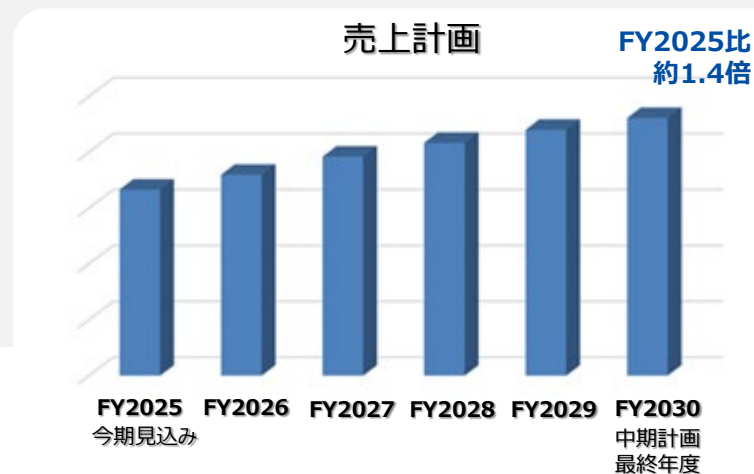
- ◆ 小信号ディスクリートの顧客毎のニーズを把握し拡販を行う
- ◆ 鹿児島工場のアピール強化
- ◆ 販売戦略マーケティングに基づく製品開発、プロセス開発

岡山工場・鹿児島工場 両輪経営：安定した利益の確保

売上UP	機会損失のない生産体制構築 営業・工場一体となった受注活動の推進
収益向上	不良率低減・歩留り向上、製造固定費抑制 生産性の向上、オンラインシステム構築によるプロセスの最適化
経費削減	DX化推進による効率化、原材料・補助材料の安定供給体制構築

安心・安全で活気ある工場を創る

- ◆「安心」：ワークエンゲージメント向上
- ◆「安全」：労働災害ゼロ
- ◆「活気」：モチベーション向上



人員の確保

- ◆再雇用期間延長制度によるベテラン・熟練工の雇用継続
- ◆新卒だけでなく、中途、外国人など多様な人材の確保
- ◆労働環境のさらなる整備
- ◆基幹システムの刷新による適正な人員配置

教育の推進

- ◆多能工化の推進
- ◆業務ローテーション・異動による中長期的人材育成
- ◆専門家教育の強化

サステナビリティ・株主還元方針

トレックスグループのマテリアリティ

1. 社会課題解決に向けた高付加価値製品の提供
2. 多様で個性ある人財が活躍できる環境の整備
3. 地球環境保全に向けた取組の推進
4. すべてのステークホルダーのための経営基盤の確立



脱炭素への取組み

上記3.「地球環境保全に向けた取組の推進」を掲げており、気候変動に関するリスクの低減および機会の創出に向けた進捗を評価するため、2030年度のScope1・2における温室効果ガス排出量削減率を2023年度比30%※に設定。

※2013年度の排出データが存在しないため正確な比較は困難ですが、試算ベースでは日本政府の掲げる2013年度比46%削減目標を上回る水準に相当すると見込んでいます。

ガバナンス体制

サステナビリティの取組みを推進するため、2023年12月に代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置。

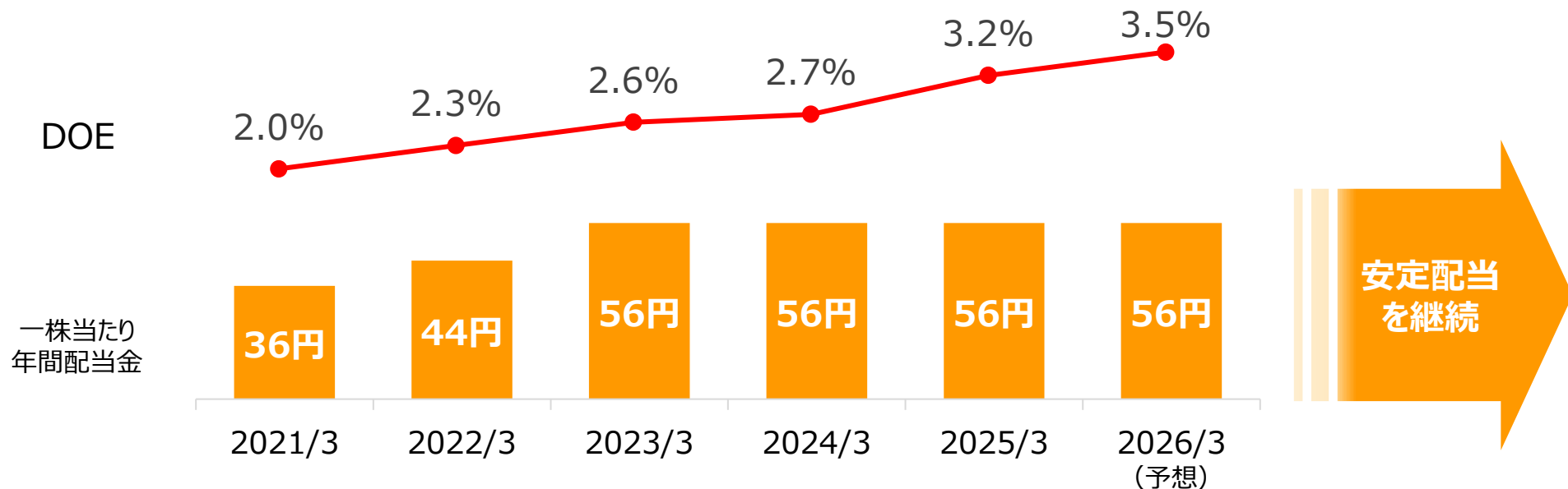
人的資本強化

トレックス・フェニテックそれぞれの戦略において、人材を“人財”と捉え、従業員への投資を企業価値向上につなげる。

上記の取組みによる企業価値の向上により、ROE 10%以上を継続できる企業を目指しつつ、

**配当政策として、連結配当性向20%以上、
DOE 3%目標 を継続します。**

→ 利益のボラティリティが大きい事業特性を踏まえ、安定性を重視し、特にDOE 3%を意識しており、今後も安定配当を継続します。



Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること



Appendix 会社紹介

1995年に設立。2014年にJASDAQスタンダード市場に上場、東証二部、一部を経て、2022年4月に東証プライム市場に移行した半導体メーカーです。

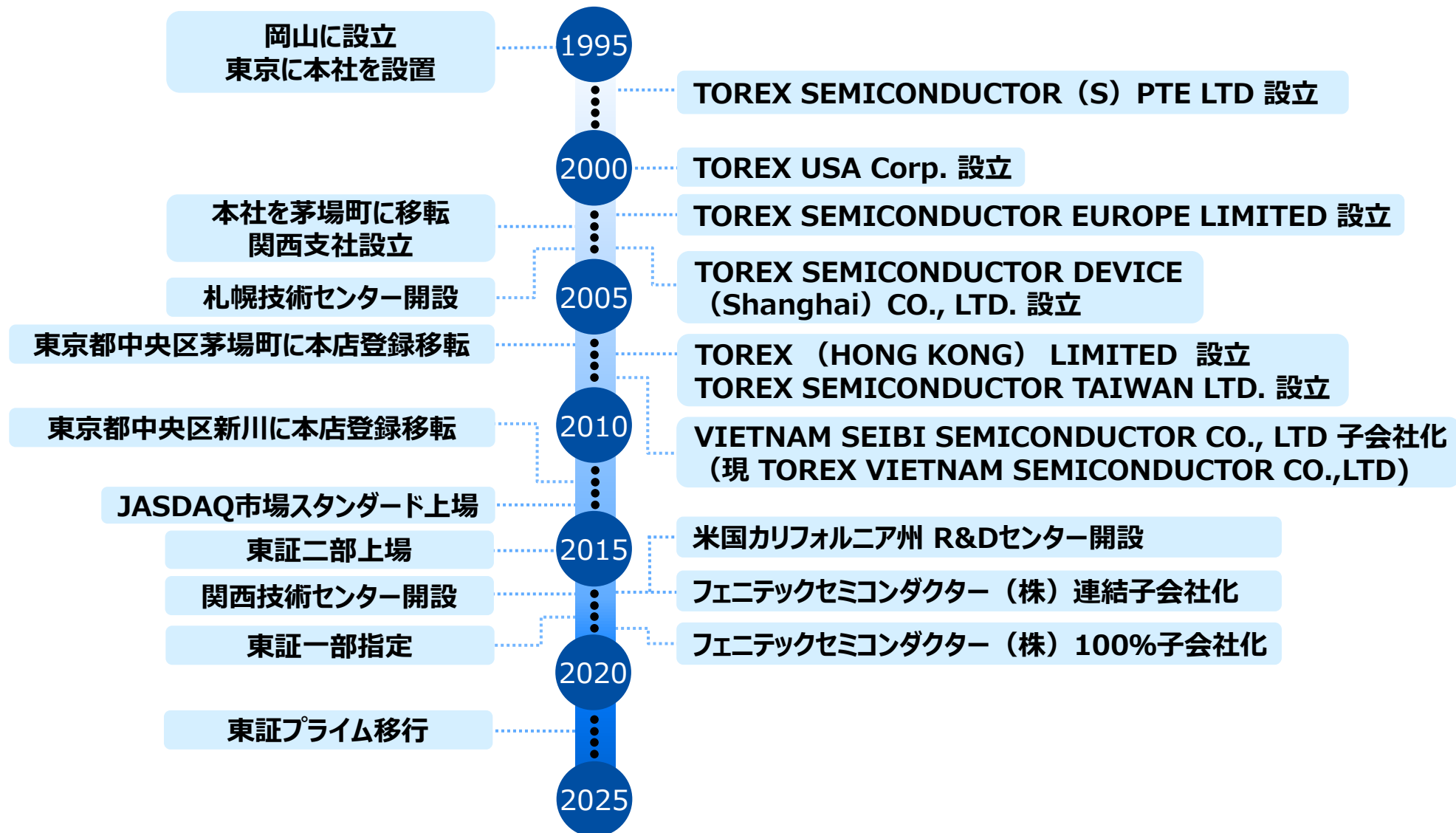
アナログのチカラ
ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 DAIHO ANNEX 3F
代表者	代表取締役社長 木村 岳史
資本金	29億6793万円（2025年9月30日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：185名 / グループ：1,038名
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



電源IC一筋、**省電力・小型化**の技術でエレクトロニクス産業の発展に貢献してきました。



TOIREX



トレックス・ セミコンダクター

**ファブレスメーカー
アナログ電源IC専業**

強
み

- ・省電力／小型化の技術
- ・蓄積されたアナログ回路ノウハウ
- ・マーケティングと製品企画力
- ・フレキシブルな生産工場
- ・高品質をキープするQC
- ・ワールドワイドの製品販売網

Phenitec
For Further Growth Together



フェニテック セミコンダクター

**半導体受託専業(ファウンドリ)
ディスクリート、パワーデバイス、
CMOSアナログプロセス**

強
み

- ・高品質を支える生産ノウハウ
- ・長期安定供給のJapanFab
- ・車載 IATF16949取得工場
- ・専門性の高い製造対応力
- ・オリジナルデバイスの開発力
- ・パワーデバイスの開発力



トレックス・ セミコンダクター グループ

- ・顧客第一に徹した、小回りの利く対応力
- ・積極的なコラボレーションやM&Aによる協力関係の構築

**ファブレス&ファウンドリ
それぞれが本業を突き詰めたプロ集団となり、
相互補完でシナジーを発揮する。**

- 国内に東京本社を含む 8 拠点、海外に9つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



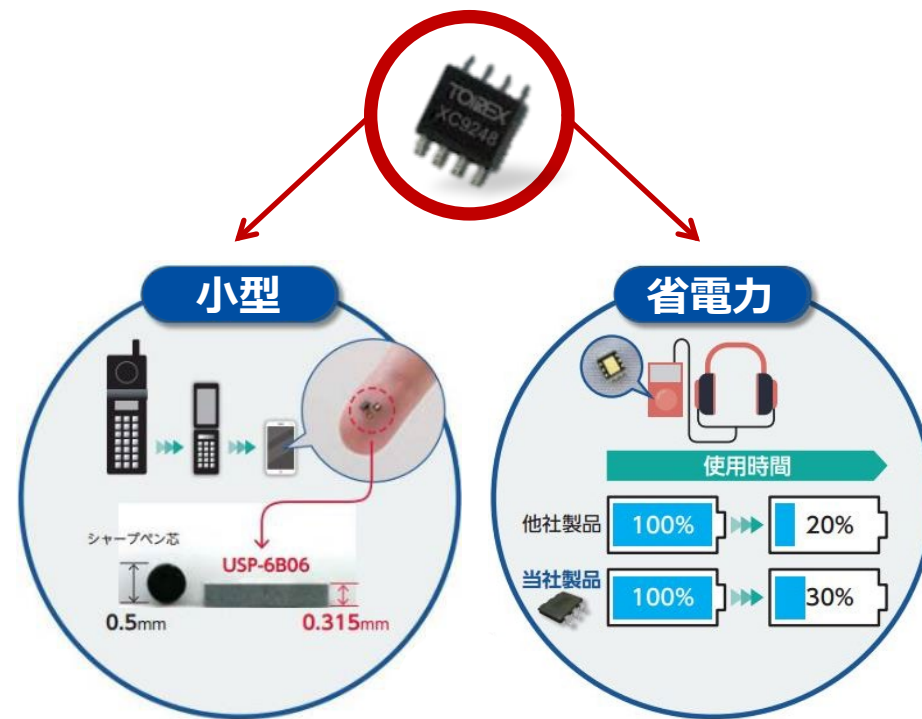
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

TOREXの電源IC



独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

	トレックス・セミコンダクター	フェニテックセミコンダクター
事業形態	ファブレス	ファウンドリ
主な製品	省エネに貢献するキーデバイスを提供	
	電源IC	ディスクリート パワー半導体 (SiC、GaN、酸化ガリウム)
今後の 重点市場	産業機器 5G、IoTモジュール 全固体電池モジュール 車載機器 自動運転、ADAS、車載カメラ 電子ミラー他、様々なECU	産業機器 産業用ロボット、鉄道、インバータ 発電施設（風力・太陽光）、パワーコンディショナー 車載機器 EV向けパワー半導体 電装品



5G



IoT



自動運転



EV

本資料に記載された内容は、2025年11月19日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。